

専門分野

臨地実習

シラバス

科目名	基礎看護学実習 I	単 位	1	時 間 数	4 5	時 期	1 年次後期	担 当 者	教 員
学 習 の ね ら い	成人教育は学習者の主体性の開発が必要である。そのため、看護を学ぶ初心者として、看護の概要を知る手掛かりとなる医療現場の構成を学ぶ実習が必要である。学習対象のイメージ化を図れることを目的として設定した。これらの実習での学びが、基礎科目での思考力の訓練や心理学の知識、専門基礎科目での人間の身体的な構造と機能、専門科目でのケアを中心とした看護の在り方専門的な看護を学ぶ基礎となる。								
目 的 ・ 目 標	<p>目的；看護の目的、対象理解、看護の機能する場及び看護活動に関する知識をもとに、実習を通して体験的に理解を深める。</p> <p>A 目標；1. 医療を支える様々な部門の活動および入院患者に対する看護活動の実際を知る。</p> <p>B 目標；1. 対象との人間関係を成立させるために必要なコミュニケーションの方法が分かる。</p> <p>2. 対象の入院生活の実際を知る</p> <p>3. フィジカルアセスメントの技術を用いて、対象の身体的状態を考察することができる</p> <p>4. 担当看護師への報告・連絡・相談を行うことができる</p>								
授 業 計 画	<p>1. 実習場所：富山市民病院各部署及び病棟</p> <p>2. 実習期間：6日間(2週間にわたり) A実習：2日(13時間) B実習：4日(32時間)</p> <p>3. 主な実習内容</p> <p>A ①医療環境としての病院の機能と構造 ②患者の入院生活の実際を知る ③看護活動の役割と機能について考えることができる</p> <p>B ①対象との人間関係を成立させるために必要なコミュニケーションの方法がわかる ②対象の入院生活の実際を知る ③フィジカルアセスメントの技術を用いて、対象の身体状態を観察することができる ④担当看護師への報告・連絡・相談を行うことができる ⑤自分の行ったこと感じたこと、考えたことを言語化することができる</p> <p>4. 実習方法</p> <p>A 1) 病院探索という形で実習を行う。実習前のその場所の概要について調査し、基礎知識を持って見学する。グループ毎に該当の場所を1か所担当し、病院機能の中で何を行っているのか、疑問に感じたことをまとめる。</p> <p>2) 病棟体験では、担当看護師とともに行動し、ケアの見学を行う。疑問に感じたことは、担当看護師との意見交換をする。</p> <p>B 1) 受け持ち対象の情報を収集・分析し、対象を全人的にとらえる。</p> <p>(1) 援助の実際や対象との会話の機会を多く持ち、対象の状態・状況・感情・考えに関する情報を収集する。</p> <p>(2) フィジカルアセスメント技術を用いて、対象の身体的状態を観察する。</p> <p>(3) 収集した情報は発達段階や整理学的な機能と比較し、解釈する。</p> <p>(4) 収集した情報から、受け持ち対象の概要を把握する。</p> <p>(5) 看護師とのコミュニケーションや実習記録の記載等、自分の考えたこと・行動したことを言語化して表現する。</p> <p>2) 実習期間中に1回のカンファレンスを行い、学生が捉えた受け持ち対象の全体像について発表し、意見交換する。</p>								
方 評 価	A・Bそれぞれの実習について、実習評価表(100%)に基づいて、実習終了後に指導者・教員から評価を受ける。 実習の評価配分は、A実習：20% B実習：80%とし、合計して本単位の得点とする。								
教 科 書	<p>実習要項</p> <p>系統看護学講座 基礎看護(1)看護学概論 系統看護学講座 基礎看護(2)基礎看護技術</p>								
文 参 考 献									
要 履 修 件	IA：なし IB：基礎看護学実習 IA 看護技術統合実技 I								

シラバス

科目名	基礎看護学実習Ⅱ	単位	1	時間数	45	開講時期	2年次 前期	担当者	全 教 員
学習のねらい	<p>すでに履修している基礎看護学実習Ⅰで対象の理解・看護の機能する場および看護活動を体験的に学習はしている。しかし、看護の実践をほとんど知らない学生にとっては、対象の全体像を把握するのは難しいと考える。そこで、対象の日常生活に視点を置き、健康を障害された人を理解し、その人に合った援助を考え実践する実習を行う。</p>								
目的・目標	<p>目的;健康障害を持ち入院している対象に必要な日常生活援助を対象の状況に合わせた方法で実施する。 目標;</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象の状況を全体的に把握することができる。 2. 対象の健康上の問題が日常生活行動に影響を及ぼすことを理解し、情報を分析・解釈できる。 3. 対象に必要な日常生活援助を抽出し、期待される成果および援助計画の立案ができる。 4. 日常生活援助技術を安全・安楽に実施することができる。 5. 実施した援助を客観的に評価することができる。 								
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習場所：富山市民病院 2. 実習期間：6日間 3. 方法 <ol style="list-style-type: none"> 1) 一人の対象を受け持ち、日常生活援助を中心とした看護を行う。 2) 受け持ち対象は、健康障害により日常生活に支障があるが比較的状态が落ち着いている人を選定する。 3) 受け持ち患者の情報を収集・整理し、対象に必要な日常生活援助を導き出す。 4) 対象に必要な日常生活援助を抽出し、援助計画を立案する。 5) 対象の状況や場の環境などを考慮し、必要な日常生活援助を対象に合わせて実践する。 6) 受け持ち対象に行う看護技術以外でも、看護技術の水準に基づいて見学・一部実施を行う。 7) カンファレンスは実習中に1回行う。 <p>立案した看護援助の計画の実施・評価をもとに、対象に合った看護援助を行うために必要なことについて意見交換を行う。</p> 								
評価方法	<p>実習評価表（100％）に基づいて、実習終了後に指導者・教員から評価を受ける。</p>								
教科書									
参考文献									
履修要件	<p>基礎看護援助論Ⅰ～Ⅲ、基礎看護学実習Ⅰ、看護技術統合実技Ⅰを履修済みであることが望ましい。</p>								

シラバス

科目名	基礎看護学実習Ⅲ	単位	2	時間数	90	開講時期	2年次 後期	担当者	全 教 員
学習のねらい	本実習は今後開始される各領域の看護学実習の導入として位置づけられている。本実習で情報収集・アセスメント、看護計画立案、実施/評価の一連の看護過程を展開する技術を習得し、各領域の特性に合わせた看護を展開するための基礎的能力を身につけてもらいたい。								
目的・目標	<p>目的；看護過程展開技術を活用しながら、疾病および障害を持つ対象に必要な看護援助を実施するための知識・技術・態度を習得する。</p> <p>目標；</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニケーション技術を用いて、健康障害を持つ対象の情報を収集することができる。 2. NANDA 看護診断の領域に沿って情報を分類し、分析・解釈することができる。 3. 関連図を用いて対象の全体像を把握することができる。 4. 対象が達成可能な期待される成果および看護計画を立案することができる。 5. 対象の健康障害を理解した上で、対象に適した援助を安全・安楽に実施することができる。 6. 期待される成果に沿って実施を評価することができる。 								
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習場所：富山市民病院 2. 実習期間：12日間 3. 実習方法 <ol style="list-style-type: none"> 1) 1名の入院患者を受け持ち、看護過程を展開する。 2) 対象の情報を系統的に収集し、NANDA の分類に沿って整理し、分析・解釈を行う。 3) 全体関連図を書き、対象の全体像を把握する。 4) 対象に考えられる看護診断を導き出す。 5) 導いた看護診断の中で、学生が介入できそうなものを1つ選び、計画を立案する。 6) 立案した計画に沿って安全・安楽に看護援助を実施する。 7) 実践した看護の評価を行う。 8) カンファレンスは実習中2回実施する。 中間カンファレンスでは、期待される成果および看護計画の妥当性について意見交換を行う。 最終カンファレンスでは、評価をもとに看護過程の展開について振り返り意見交換を行う。 								
評価方法	実習評価表（100％）に基づいて、実習終了後に指導者・教員から評価を受ける。								
教科書									
参考文献									

シラバス

科目名	地域・在宅看護論 実習 I	単 位	1	時 間 数	4 5	開 講 時 期	1 年次前期	担 当 者	教員
学 習 の ね ら い	<p>地域で生活する人々の理解とその多様な支援の実際について学ぶ。</p> <p>地域・在宅看護論実習 I では、各発達段階にある人々の暮らしを知り、対象を生活者として捉えることをねらいとする。実習での体験から、コミュニケーションの取り方や主体的な学習の重要性についての理解を期待する。また、病気や障害を持つ人々への看護実践を行うための基礎的能力を養いたい。</p>								
目 的 ・ 目 標	<p>目的；地域で生活する人々の暮らしを知り、健康と生活のつながりを理解する。</p> <p>目標；</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生活者としての対象を理解することができる。 2. 対象を取り巻く人や環境について理解することができる。 3. 対象の健康管理や社会での役割について考えることができる。 								
授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習場所 <ul style="list-style-type: none"> 【地域-A】 子供に関する以下の施設のうち 1 カ所 <ul style="list-style-type: none"> ・ 東部児童館・星井町児童館・婦中央児童館 ・ もなみ子どもクラブ・星槎学童保育 (CIC5 階) 【地域-B】 成人・高齢者に関する以下の施設のうち 1 カ所 <ul style="list-style-type: none"> ・ 市立図書館本館・婦中図書館 / ・ 市民学習センター ・ 角川介護予防センター / ・ 富山まちなか病院・富山市民病院 (健康診断部健康管理科) 2. 実習期間 8 日間 3. 実習方法 <ol style="list-style-type: none"> 1) 外部実習 <ul style="list-style-type: none"> ・ 対象者にインタビューし、健康への意識を調査する。 ・ 実習施設で予定されているスケジュールに沿って、事業等に参加する。 2) 学内演習 <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の特性や各年代の発達段階について、事前学習を行う。 ・ 既習の青年期の暮らしと比較し、各発達段階における対象の暮らしと健康についてまとめる。 								
評 価 方 法	<p>実習評価表 (100%) に基づいて、教員から評価を受ける。</p>								
教 科 書	<p>地域・在宅看護論 (医学書院)</p>								
参 考 文 献	<p>人間関係論</p>								
履 修 要 件									

シラバス

科目名	地域・在宅看護論 実習Ⅱ	単 位	2	時 間 数	90	開 講 時 期	2年次後期 3年次前期	担 当 者	教員
学習のねらい	<p>地域で生活する人々の理解とその多様な支援の実際について学ぶ。</p> <p>地域・在宅看護論実習Ⅱでは、地域における看護活動の現状と在宅療養における看護役割を理解し、対象と家族の健康上の問題の把握や多職種との連携、社会資源の活用方法について学ぶ。</p>								
目的・目標	<p>目的；地域における看護活動を通して保健医療福祉の実際を理解し、地域で生活している人々の健康状況を捉えることができ、看護の役割を判断・行動する基礎的能力を養う。</p> <p>目標；</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域・在宅で生活する人々とその家族の健康状況を理解し、地域看護活動を通して健康の保持増進、疾病予防の方法を理解する。 2. 在宅で療養する人々とその家族の問題を理解し、健康の維持・増進が図れるよう支援できる基礎的能力を養う。 3. 地域で生活する人々の健康・福祉に関する社会資源の活用へのニーズを知り、社会資源の活用システム及び実態を理解する。 4. 地域で生活する人々の健康上の問題の解決にかかわる多職種の役割・機能を理解する。 								
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習場所 <ul style="list-style-type: none"> 【在-A】 訪問看護ステーション 【在-B】 保健福祉センター 【在-C】 地域包括支援センター 【在-D】 富山市民病院 ふれあい地域医療センター 2. 実習期間 (13日間) 2週間 3. 実習方法 <ul style="list-style-type: none"> 【在-A】 <ol style="list-style-type: none"> ①療養者及び家族に行われている援助を見学または一部実施し、訪問看護の実際を学ぶ。 ②実習期間中に2回以上訪問できる対象1事例に対し、訪問計画を立案し実践する。 ③カンファレンス等に参加し、多職種との連携について学ぶ。 【在-B】 <ol style="list-style-type: none"> ①保健福祉センターの事業に参加し、地域住民の健康保持・増進の施策について学ぶ。 ②健康教育に関する教材を作成する。 【在-C】 <p>施設で実施されている事業に参加し、地域での保健・福祉活動について学ぶ。</p> 【在-D】 <p>病院や施設、在宅等など多施設、多職種との連携の実際について学ぶ。</p> 								
評価方法	<p>実習評価表（100％）に基づいて実習指導者、教員から評価を受ける。</p> <p>実習の評価配分は、訪問看護ステーション：50％ 保健福祉センター：30％、地域包括支援センター；10％、病院；10％とする。</p>								
教科書	地域・在宅看護論（医学書院）								
参考文献	ナーシング・グラフィカ地域療養を支えるケア、在宅看護論（南江堂）								
履修要件	基礎看護学実習ⅠⅡⅢ、専門基礎分野、地域・在宅看護論演習								

シラバス

科目名	成人・老年看護学 実習Ⅰ（急性期）	単 位	2	時 間 数	90	開 講 時 期	2年次後期 3年次前期	担 当 者	教員
学習のねらい	急性期の看護では、フィジカルアセスメントを通して侵襲に対する生体反応を把握し、生命の安全・維持、苦痛に対する援助や、ヘルスアセスメントを行い心理・社会的援助、家族支援を学んでほしい。医療技術の高度化に伴い低侵襲の手術が増えており、患者の回復は早く早期に退院する。退院後にその人らしい社会生活に戻れるように術前から退院に向け関わることが必要となる。よって周術期を通して関わられる患者を受持ち、急性期における看護を学んでほしい。								
目的・目標	<p>目的； 急性期にある患者とその家族を包括的に捉え、生体機能が急激に変化する患者の状態に即した看護を行うための臨床判断能力を養う。</p> <p>目標；</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 侵襲に対する生体反応をアセスメントすることができる 2. 生命の安全と症状に伴う苦痛の緩和の援助ができる 3. 検査・治療時の援助の意義を理解し、必要な援助が実施できる 4. 日常生活における適切な自己管理法についての援助ができる 5. 家族の抱く不安や役割を理解し、必要な援助が実施できる 								
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習場所 富山市民病院 外科系病棟・集中治療科・高度管理治療科 2. 実習期間 11日間（3週間） ・外科系病棟 10日 ・集中治療科/高度管理治療科 1日 3. 主な実習内容 ① 急性の状態にある患者の看護 ② 救急看護・クリティカルケアについて 4. 実習方法 【外科系病棟の実習】 ① 受け持ち患者を1名選定し、臨床判断したことを記録にまとめる ② 受け持ち患者以外の看護を通して、各システムに特有の症状・検査・処置についても体験を多く持ち自己学習を深める ③ 病棟師長、指導者参加によるカンファレンスを実習期間中に設定する 【集中治療科/高度管理治療科の実習】 ① 集中治療科の概要についてオリエンテーションを受ける ② 救急看護・クリティカルケアの基本を学ぶ ③ 集中治療科での看護の実際を担当看護師に同行し、見学または一部実施する ④ 外科病棟実習の受け持ち患者が集中治療科に入室となった場合は、実習を行う 								
方 評 法 価	<p>実習終了後に評価表（100%）に基づき、実習指導者・担当教員から評価を受ける</p> <p>評価配分は、外科病棟（90%）、集中治療科（10%）とする</p>								
教科書	<p>系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護学 ②基礎看護技術Ⅰ、③基礎看護技術Ⅱ 専門Ⅱ 成人看護学 ①成人看護学総論、②呼吸器、③循環器、④血液・造血器、⑤消化器、⑥内分泌・代謝、⑦脳・神経、⑧腎・泌尿器、⑨皮膚 専門基礎 人体の構造と機能 ①解剖生理学、 別巻 リハビリテーション看護、臨床検査 医学書院 看護がみえるフィジカルアセスメント メディックメディア</p>								
文 参 献 考									
要件 履修	基礎看護学実習、成人看護援助論、老年看護援助論、成人看護学演習、老年看護学演習								

シラバス

科目名	成人・老年看護学 実習Ⅱ（回復期）	単 位	2	時 間 数	90	開 講 時 期	2年次後期 3年次前期	担 当 者	教員
学 習 の ね ら い	回復期の看護では、患者の病態に応じて日常生活の自立へ向けた援助が必要になる。障害をもつ患者とその家族が抱える課題の解決には、さまざまな領域から専門的な支援が必要とされる。多職種と共通の目標とプログラムを立て、患者とその家族を中心に据えて協働していくプロセスを学んでほしい。また患者の心身の状態を的確に把握し、リハビリテーション過程において患者の生活行動の再獲得に向けた支援を学んでほしい。								
目 的 ・ 目 標	<p>目的；</p> <p>機能障害を持つ回復期にある患者とその家族の特徴と、対象がその人らしい自立した生活を再構築するためのプロセスを理解するとともに、ADL自立のための訓練や援助および日常生活指導ができる能力を養う。</p> <p>目標；</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生体機能の回復の状態を述べることができる 2. 回復期にある対象の身体的・精神的・社会的状況について理解できる 3. 回復の段階に合わせて日常生活自立のための援助ができる 4. 在宅復帰に向けた支援ができる 								
授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習場所 富山市民病院 脳神経外科・整形外科病棟 2. 実習期間 11日間（3週間） 3. 主な実習内容 障害がある患者とその家族の生活を支援する看護 4. 実習方法 <ol style="list-style-type: none"> ① 受け持ち患者を1名選定し、看護過程の展開をして記録にまとめる ② 受け持ち患者以外の看護を通して、各系統に特有の症状・検査・処置についても体験を多く持ち自己学習を深める ③ 病棟師長、指導者参加によるカンファレンスを実習期間中に設定する 								
方 法 評 価	実習終了後に評価表（100％）に基づき、実習指導者・担当教員から評価を受ける								
教 科 書	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護学 ②基礎看護技術Ⅰ、③基礎看護技術Ⅱ 専門Ⅱ 成人看護学 ①成人看護学総論、⑦脳・神経、⑩運動器 専門基礎 人体の構造と機能 ①解剖生理学 別巻 リハビリテーション看護、臨床検査 医学書院 看護がみえるフィジカルアセスメント メディックメディア								
文 参 考 文 献									
要 履 修 件	基礎看護学実習、成人看護援助論、老年看護援助論、成人看護学演習、老年看護学演習								

シラバス

科目名	成人・老年看護学実習Ⅲ (慢性期・終末期)	単位	2	時間数	90	開講時期	2年次後期 3年次前期	担当者	教員
ねらい	成人・老年期にある対象の特徴を理解し、各健康レベルに応じた看護の理論と実践を結びつけて理解し看護実践できる能力を身につけてほしい。								
目的・目標	<p>目的；患者の健康障害に応じた日常生活援助や患者が疾病のコントロールをしながら快適な社会生活が送れるための援助ができる。また近い将来、死を免れない患者および家族の苦痛の緩和とQOL向上のための支援について学ぶ。</p> <p>目標；</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 疾病のコントロールをしながら生活していく患者の現在の状態を理解できる。 2. 慢性的な健康障害をもつ患者とその家族のQOLの向上に向けて看護実践ができる。 3. 回復への期待と増悪への不安を持つ患者および家族の精神面への援助ができる。 4. 家族の介護力や利用可能な社会資源について把握し、患者とその家族の生活に必要なサポートを考えることができる。 5. 生命を脅かすような疾患による問題に直面している患者とその家族の身体的・精神的・社会的特徴が理解できる。 6. 症状マネジメントの実際が分かる。 7. 患者や家族の希望を尊重し、苦痛を緩和するための援助ができる。 8. 患者や家族が抱く感情を受け止め、支持的に関わることができる。 9. 終末期看護の特徴と役割が分かる。 								
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習場所 富山市民病院 内科系病棟・緩和ケア病棟 2. 実習期間 11日間（3週間） 3. 主な実習内容 <ol style="list-style-type: none"> ① 健康障害の複雑さ・多様性を理解し健康障害のレベルに応じた看護 ② 死を間近にした患者とその家族を支援する看護 4. 実習方法 <ol style="list-style-type: none"> ① 受け持ち患者を1名選定し、看護過程の展開をして記録にまとめる ② 受け持ち患者以外の看護を通して、各系統に特有の症状・検査・処置についても体験を多く持ち自己学習を深める ③ 病棟師長、指導者参加によるカンファレンスを実習期間中に設定する 								
方法	実習終了後に評価表（100％）に基づき、実習指導者・担当教員から評価を受ける								
教科書	<p>系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学総論① 呼吸器②、循環器③、血液・造血器④、消化器疾⑤、内分泌・代謝⑥、脳・神経⑦、腎・泌尿器⑧、女性生殖器⑨、運動器⑩、アレルギー・膠原病感染症⑪</p> <p>専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ②、基礎看護技術Ⅱ③、別巻 リハビリテーション看護、専門分野Ⅱ 老年看護学、老年看護 病態・疾患論 成人看護学 緩和・ターミナル看護論</p>								
参考文献	<p>系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学①、病理学、栄養学、薬理学、別巻 臨床検査</p> <p>疾患別看護過程の展開、今日の治療薬、実習要項</p>								
要件	基礎看護学実習 成人看護援助論 成人看護学演習 老年看護援助論 老年看護学演習								

シラバス

科目名	老年看護学実習	単 位	2	時 間 数	90	開 講 時 期	2年次後期 3年次前期	担 当 者	教員
学習のねらい	<p>介護サービスを受ける高齢者とのかかわりを通じて、加齢的变化および健康障害が日常生活に与える影響について主体的に学ぶ。</p> <p>施設で暮らす高齢者の生活上のニーズを見出し、生活の質を考慮した支援を実践することから理解を深める。また、老人福祉施設の実際と看護師の役割について学ぶ。</p>								
目的・目標	<p>目的；介護を必要とする高齢者の生活上のニーズを理解し、施設での日常生活を支援する。また、老人福祉施設の実際について理解を深める。</p> <p>目標；</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 介護を必要とする高齢者の身体的・精神的・社会的な特性を理解できる。 2. 加齢的变化と健康障害の関連性をアセスメントし、日常生活への影響を観察できる。 3. 高齢者の療養の場および生活機能障害を把握し、生活上のニーズを見出すことができる。 4. 老人福祉施設で生活する高齢者の生活の質を考慮した健康援助を実践することができる。 5. 老人福祉施設における看護師の役割を理解できる。 6. 老人福祉施設の実際について理解できる 								
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習場所 日野、にながわ光風苑、堀川南光風苑、あすなろの郷 2. 実習期間 12日間（3週間） 3. 主な実習内容 1) 生活状況の把握 2) 個人の生活史 3) 対象主体のコミュニケーションの方法 4) 生活上のニーズ 5) 生活援助の実際 6) 看護師の役割 7) 老人福祉法・介護保険法 4. 実習方法 1) ディサービス・ショートステイ実習において、介護を必要とする高齢者の特徴を理解する。 2) 施設実習では利用者を1名受け持ち、日常生活と生活上のニーズを把握し、必要な援助を実践する。 3) 実習中間に当たる7日目には、学内でグループディスカッションを行い、情報の交換及び介入の方向性を話し合う。 4) 実習最終日にはカンファレンスを行う。 5) プライバシーの保護に十分注意すること。トラブル等は早めに相談しアドバイスを得ること。 								
評価方法	実習終了後に実習評価表（100％）に基づいて指導者及び教員が行う。								
教科書	実習要項、系統看護学講座 老年看護学 医学書院、系統看護学講座 老年看護 病態・疾患論 医学書院								
参考文献	系統看護学講座 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ 医学書院 系統看護学講座 疾病のなりたちと回復の促進[3]薬理学 医学書院								
履修要件	専門基礎分野、基礎看護学実習ⅠⅡⅢ、老年看護援助論、老年看護学演習								

シラバス

科目名	小児看護学実習 I	単 位	1	時 間 数	4 5	開 講 時 期	2 年次前期	担 当 者	教員
学習のねらい	<p>小児看護学実習は、健康障害があり医療施設に入院または通院している子どもとその家族を対象に看護を行います。</p> <p>小児看護の実践には、子どもの成長・発達過程やその特徴、およびそれらを考慮したかかわり方を経験から学ぶことが必要です。そこで小児看護実習を I・II とし、まず小児看護学実習 I では、乳幼児期の子どもの保育所（園）での生活の様子を観察しかかわる体験をします。子どもと仲良く、安全に楽しく遊ぶ中で、保育の実際も学んでください。</p>								
目的・目標	<p>目的； 乳幼児とのかかわりを通し、子どもの発達過程やその特徴、およびそれらを考慮したかかわり方について、理解を深める。</p> <p>目標；</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 標準的な乳幼児の発達や特性、生活について理解することができる。 2. 乳幼児とのかかわり方の実際を学ぶことができる。 3. 保育の実際を学ぶことができる。 4. 子どもをとりまく社会的環境の変化（家族関係、地域社会など）と子育て支援（行政の施策など）について、理解を深めることができる。 								
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 実習場所： 富山市内の保育所（園） 2 実習期間： 7 日間（うち学内 2 日間） 3 実習方法 <ul style="list-style-type: none"> ・ 3 歳以上児・未満児の発達段階の違うクラスに入り、乳幼児の世話をしたり、コミュニケーションをとったりする中で、乳幼児同士および乳幼児と保育士とのコミュニケーションの様子を観察し、その場面を振り返り、かかわり方について考察する（2 日間）。 ・ 1 人の乳幼児を中心にに関わり、保育士の助言をうけながら、その子どもの発達に応じた保育のあり方、発達課題などを考える（3 日間）。 ・ 現在の子どもをとりまく社会的環境（家族関係、地域、行政の施策など）について意見交換し、レポートする。 								
評価方法	実習記録を主とし、目標に準じた評価表（100%）を基に指導者・教員の評価を受ける。								
教科書	系統看護学講座 専門分野 II 小児看護学概論・小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 II 小児臨床看護各論 医学書院								
参考文献									
履修要件	小児看護学総論								

シラバス

科 目 名	小児看護学実習Ⅱ	単 位	1	時 間 数	4 5	開 講 時	2 年次後期 3 年次前期	担 当 者	教 員
ね ら い	市内診療所・富山市民病院・重症心身障害児施設での実習を通して、子どもの発達課題や健康障害、健康の維持・増進について多角的な視点で子どもを把握し、援助できることをねらいとする。そして、実習を通して自己の小児観を養える機会としたい。								
目 的 ・ 目 標	<p>目的；さまざまな健康障害のレベルにある子どもやその家族との関わりを通して、発達支援と健康の回復・維持および増進のための援助に関する基礎的な知識・技術・態度を習得する。</p> <p>目標；</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小児に多くみられる疾患や健康保持・増進を目的とした疾病や障害予防を行う外来環境について理解できる。 2. 外来受診する子どもとその家族へのかかわりが理解できる。 3. 入院患児と家族を1ユニットと捉え、健康問題の解決に必要な看護を考えることができる。 4. 患児の発達段階や心身の状態を理解し、必要な援助を一部実施できる。 5. 長期的な健康管理を必要とする子どもとその家族の特徴と、外来診療における継続看護の実際を知ることができる。 6. 重症心身障害児の特徴を知り、日常生活の実際を理解することができる。 7. 小児看護学実習を通して、自己の小児観が考察できる。 								
授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 実習場所 <ul style="list-style-type: none"> ・市内診療所：岡部こども医院、ふたごぼしキッズクリニック、しんたにこどもクリニック ・富山市民病院：小児科病棟・小児科外来 ・重症心身障害児施設：あゆみの郷 2 実習期間：市内診療所 2 日間　富山市民病院（小児科病棟 2 日間・小児科外来 1 日間） あゆみの郷 1 日間　学内カンファレンス 1 日間 3 実習方法 <ul style="list-style-type: none"> 【市内診療所】 <ul style="list-style-type: none"> ・バイタルサイン測定、問診、身体計測、診察の介助、検査・処置という外来診療の一連の流れの中で、看護者の子どもと家族に対するかかわり方を見学、一部実施する。 ・看護者のかかわり方や子どもと家族の反応を中心に観察し 1 場面を再構築する。 【小児科病棟】 <ul style="list-style-type: none"> ・患児の成長発達段階を考慮し、担当者と相談して受け持ち患児を決定する。 ・受け持ち患児に関する病態や必要な情報を収集し、患児に起きている現象や反応をアセスメントする。 【小児科外来】 <ul style="list-style-type: none"> ・長期的管理が必要な子どもとその家族への看護の実際を見学し、治療に伴う生活上の留意点について考察し、看護者のかかわり方や子どもと家族の反応を中心に観察し 1 場面を再構築する。 【あゆみの郷】 <ul style="list-style-type: none"> ・施設内を見学させてもらい、援助の実際を観察する。また、利用者の方とかかわりをもつ。 【学内カンファレンス】 <ul style="list-style-type: none"> ・健康障害のある子どもとその家族とのかかわりを通して学んだことについて学びを共有する。 								
方 評 法 備	実習記録を主とし、目標に準じた評価表（100％）を基に指導者・教員の評価を受ける。								
教 科 書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論・小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論 医学書院								
文 参 考 文 献									
要 履 修 件	専門基礎分野 基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 小児看護援助論Ⅰ・Ⅱ 小児看護学演習								

シラバス

科目名	母性看護学実習	単 位	2	時 間 数	90	開 講 時 期	2年次後期 3年次前期	担 当 者	教員
ねらい 学習の	女性とその家族の生涯を通じた健康の維持・増進・回復を支援する看護実践を学ぶ。								
目的・ 目標	目的；女性とその家族の生涯を通じた健康の維持・増進・回復に関わる看護を実践できる 目標； <ol style="list-style-type: none"> 1. 周産期にある対象とその家族の特徴を理解し看護を実践できる 2. 新生児の母体外への適応を促進する看護を実践できる 3. 女性特有の健康問題を持つ対象とその家族の特徴を理解し看護を実践できる 4. 生命の尊厳について自己の考えを深めることができる 								
授業 計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習場所 富山市立富山市民病院、西病棟3階 2. 実習期間 11日間 3. 内容 <ol style="list-style-type: none"> 1) 周産期の看護 2) 女性特有の健康問題への看護 4. 実習方法 <ol style="list-style-type: none"> 1) 産褥期の対象を受け持ち、看護過程を展開する。 2) 妊娠期の対象を受け持ち、看護過程の展開をする。 3) 女性特有の健康問題をもった対象を受け持ち、看護過程を展開する。 4) 実習期間中に正常分娩を1例以上見学する。 5) 新生児室での看護を実施し、児の健康生活環境について考える。 6) 指導者参加によるカンファレンスを行う。各自の看護過程展開について、意見交換を行う。また、事例を通して学びを共有化する。 								
評価 方法	実習評価表（100％）に基づき、実習指導者・教員により評価を行う								
教科 書	解剖生理学、母性看護学総論、母性看護学各論、ウエルネス看護診断 実践マタニティ診断、ウエルネス看護診断にもとづく母性看護過程 授業で配布した参考資料								
文 献 参 考									
要 件 履 修	基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 母性看護援助論Ⅰ・Ⅱ、母性看護学演習								

シラバス

科目名	精神看護学実習	単 位	2	時 間 数	90	時 期	2 年次後期 3 年次前期	担 当	教員
学習のねらい	<p>こころの問題をもつ対象の看護を学ぶために精神科病棟・精神科デイケア・ゆめさぼーとらいちょうで実習する。</p> <p>精神科病棟における実習では、精神に障害を持つ対象の理解と治療的な人間関係を含む看護の役割を学ぶ。対象の精神症状が、日常生活にどのように影響しているかをアセスメントし、看護の方向を捉える。また、対象との相互作用の過程を考察することで、学生の自己洞察、自己理解の機会としたい。そのことによつて、自己の持つ問題や患者に対する思いを明らかにし、対象との関わり方を学習する。</p> <p>精神科デイケア・ゆめさぼーとらいちょうにおける実習では、各施設の目的・目標の違いを理解し、対象が抱えている問題に対し理解するとともに、社会復帰するために必要な社会資源とその連携について考える機会とする。</p>								
目的・目標	<p>目的；地域で生活している対象や入院中の対象との関わりを通して、精神に障害を持つ対象への看護を実践できる能力を養う。</p> <p>目標；</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神に障害を持つ対象を理解することができる。 2. 精神科病棟の構造上の特徴、治療活動、看護の実際を知り、その必要性を理解する。 3. 対象のセルフケア能力をアセスメントし、計画立案・援助を行ううえでの基礎的実践力を養う。 4. 受け持ち患者との交流を通して、人間関係やコミュニケーションのとり方が患者に及ぼす影響について知り、相手に応じた関わり方ができる。 5. 受け持ち患者との交流を通して、対人場面での自己の傾向に気づき、修正できる。 6. 地域で生活する障害者の生活状況を理解し、施設の役割を学習する。 7. サービスを提供する医療福祉従事者の役割およびサービスとの連携について考える。 8. 精神保健に関する社会資源の活用、その他支援サービスを学習する。 								
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習場所：富山市立富山市民病院 南病棟4階 精神科デイケア ゆめさぼーとらいちょう 蜷川及び熊野 2. 実習期間：11日半（3週間） 南病棟4階：8日半 精神科デイケア：2日 らいちょう蜷川及び熊野：1日 3. 実習方法 <ul style="list-style-type: none"> 【南病棟4階】 <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習初日に、病棟オリエンテーションを受ける。 2) 受け持ち患者を1名選択し、看護過程を展開する。 3) 実習期間中に指導者参加による中間・最終の2回カンファレンスを行う。 【精神科デイケア】 <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習初日に施設の概要についてオリエンテーションを受ける 2) 毎日色々な利用者さんと関わりながら、その中の1人を中心に観察を行う 3) プログラムに参加する 【ゆめさぼーとらいちょう蜷川及び熊野】 <ol style="list-style-type: none"> 1) 施設の概要についてオリエンテーションを受ける 2) 就労継続支援B型で行われているプログラムに参加する 								
方 法 評 価	<p>実習評価表（100％）に基づいて、実習終了後に指導者・教員から評価を受ける。</p> <p>評価配分は、病棟（70％）、精神デイケア（20％）、施設（10％）とする</p>								
書 教 科	精神看護学総論、精神看護援助論、精神看護学演習で使用したテキスト								
文 参 献 考									
要 履 件 修	基礎看護学実習Ⅲ、臨地看護学演習Ⅲ、精神看護学演習								

シラバス

科目名	看護学統合実習	単 位	2	時 間 数	90	開 講 時 期	3年次後期	担 当 者	教員
学習のねらい	各専門領域での実習を踏まえ、実務に即した実習を行う。臨地実習では複雑化する患者像に対応できる個別性の高いより総合的な看護を実践するために、ケア環境とチーム体制を理解し活用する力および臨床推論力や優先順位を判断する力を養う。本領域での学習を通して、学生が生涯を通して主体的に学び、考え、実践する力を育成していきたい。								
目的・目標	<p>目的 看護の知識・技術・態度を統合し、より実践に近い看護の実際を学ぶ。</p> <p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 臨床の看護方式に沿った看護実践ができる (2) 病棟管理の意味とその役割について理解できる。 (3) 夜間の患者の状況を知ることにより、患者を総合的に理解できる。 (4) 将来の看護師としての自己の課題を明確にできる。 								
授業計画	<p>1. 実習場所 富山市民病院</p> <p>2. 実習期間 11日（3週間）</p> <p>3. 実習方法</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 臨床の看護方式に沿った看護実践を、ペアの一員として行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・看護実践（臨床判断、看護技術の習得、カンファレンスの参加） ・優先順位の判断 ・自分の状況を言語化し、ペアの看護師と協働する ・業務の調整や多職種との連携の実際に参加する ・日勤から準夜勤へ、申し送る内容をまとめペアにあるいは準夜勤者に伝える (2) 病棟管理の意味とその役割について学ぶ。 (3) 夜間実習を行い、患者を総合的に理解し、行われている看護を見学および一部実施する。 (4) 専門職としての学習継続の必要性を理解し、カンファレンスの場で意欲を述べる。 								
評価方法	実習終了後に評価表（100％）に基づき、実習指導者・担当教員から評価を受ける。								
教科書									
参考文献									
履修要件	基礎看護学実習、成人看護学実習、老年看護学実習、小児看護学実習、母性看護学実習、精神看護学実習								